

「学校と博物館の連携」

埼玉県立歴史と民俗の博物館 学習支援担当 担当課長 佐藤 雅裕

本館学習支援担当をしております佐藤です。平成27年度より担当として3年目を迎えました。友の会の皆様方にも、ご支援をいただきありがとうございます。学習支援担当では、博物館に来館された方に、体験を通して歴史的なものや民俗的なものに興味・関心を高めていただくことをねらいとして日々、お客様への対応をしております。また、

近年は、小中学校の児童・生徒が社会科見学等で来館する機会が増えてきています。ここでは、「学校と博物館の連携」について当館の事業をもとにご紹介します。

博物館と学校が連携・協力し合いながら子供たちの教育を進めていくことを「博学連携」といいます。博物館には実物や本物の教材があり、専門家である学芸員がいます。見て学ぶだけでなく、より詳しい話を聞いたり、体験をしたりして、学校だけでは学ぶことができない貴重な学習の場となるよう当館でも博学連携を進めています。

当館の博学連携事業は大きく3つあります。学校団体受入・出前授業・教職員研修です。学校団体受入では、県内の小中学校を中心に前年度は89校の利用がありました。その中でも小学3・4年生の利用が多いです。小学3年生の社会科の授業において昔の暮らしと昔の道具について学習します。

当館で実施している学校向けプログラムとして「昔の道具体験」・「火起こし体験」等があり、石臼や井戸、洗濯板等の体験や、火起こし道具を使用して煙を起こす体験などができます。体験ボランティアの協力を得ることで、一人一人が体験を通して学ぶことができると好評です。また、展示解説ボランティアの方から電気やガスや水道がなかった頃の暮らし等について説明を聞くことができ、こちらも喜ばれています。

博物館になかなか来る機会が少ない学校向けに出前授業も実施しています。「昔の道具体験」の他に「衣装から学ぶ日本の歴史」・「土器の観察」・体験メニューの「まが玉作り・ミニ絵巻物作り」ができます。こちらは年間20件程の実施です。

教職員研修では、当館主催の「博物館教育利用セミナー」を8月に実施している他、県の初任者研修等の受入もしています。学校の先生方を対象に、当館事業について体験や講義を通して理解を深めることを通して、博物館の積極的な活用を促しています。他にも教育普及資料の貸出、高校生や大学生のインターンシップ受入実習、中学生の職場体験受入等を実施しています。これらの活動を知っていただくために、博物館利用ガイド「学校と博物館の連携・利用案内」を県内小中学校・特別支援学校に配布しています。

これからも、博学連携を進めていけるよう受入体制を整備し、来館される方々に親しまれる博物館づくりをめざしていきます。ご支援・ご協力をよろしくお願い致します。

今後のイベントスケジュール * 申込は『JUNO』に応募要項が掲載されてからお願いします。
ホームページ: <http://junosaitama.net/> ブログ: <http://hakutomobulog.at.webry.info/>

- 11月17日(金) まちあるき研究会(行田市) <前号で紹介>
- 11月19日(日) 講演会「武蔵国分寺の造営と北武蔵」 <前号で紹介>
- 11月25日(土) 古道探索倶楽部(赤山街道 越谷道その3) <前号で紹介>
- 12月1日(金) お祭りクラブ「玉敷神社」(加須市) <今号で紹介>
- 12月15日(金) 見学会「武蔵国分寺と横浜歴史博物館」 <今号で紹介>
- 1月10日(水) プレミアム講座 特別展「明治天皇と氷川神社」関連 <次号で紹介>

友の会見学会『上総国歴史探訪』を開催
2017/09/20に44名が参加

9月20日(水)に友の会のバス見学会『上総国歴史探訪』を実施しました。参加者は44名。午前中(10時~11時半頃)、市原市の上総国分尼寺跡・同国分寺跡・現国分寺を見学しました。尼寺跡では、文化庁の「ふるさと歴史の広場」事業として建設された展示館で説明を聞いた上、同事業で建設された朱塗の華麗な「復元中門と回廊」や金堂跡などを見学しました。写真は上総国分寺七重塔(高さ63m以上)基礎の石(七重塔心礎)の前です。

昼食は市原市内の「ふさのえき食堂」で、房総の新鮮・美味しい“刺身定食”を堪能しました。午後は「上総国一之宮玉前神社(一宮町)」を約30分自由参拝した後「行元寺(いすみ市)」に移動し、約1時間ガイドの渡辺雅明氏の解説で、本堂の“幻の御用彫師・高松又八”の極彩色の豪華絢爛な欄間彫刻「牡丹に錦鶏」ほかを、次に隣接する客殿(旧書院)で“波の伊八”の欄間彫刻「波と宝珠」と「波の旭と鶴」を觀賞しました。



伊八の波図欄間彫刻から約22年後に北斎が世に出した『富嶽三十六景』の三大傑作の一つといわれる「神奈川沖浪裏」の画風に、行元寺の伊八の「波図欄間彫刻」が強い影響を与えたといわれていますが、北斎が行元寺を訪れたと言う確証はないようでその接点が知りたいものです。

(山口清光 記)

友の会からのお知らせ

友の会の活動にご参加ください

◎友の会のすべての事業・運営は会員のボランティア活動で行われています。会報『JUNO』の製作や印刷、発送も会員が集まって毎月行っています。

◎簡単なことから事業(見学会、講演会、クラブ活動)の企画運営まで、あなたもぜひ、余暇時間を「友の会」のためにお割きください。土日の友の会の受付へ、お声かけください。

『JUNO』にエッセイや旅行記・書評などの原稿を送ってください。

◎友の会の機関誌『JUNO』で広く会員の皆様の原稿を募集します。内容は自由ですが、友の会や博物館活動に関連したもので、400~800文字程度。編集委員会で検討の上、誌面に掲載します。内容・テーマにより巻頭エッセイへの掲載をお願いする場合があります。送り先は「博物館内友の会」あて郵送。またはEメールで pu8n-tki@asahi-net.or.jp まで。

「赤山街道・越谷道」を歩く その2

友の会・古道探索倶楽部 9月30日に開催

参加者27名。駅前の地図の前で、全体の説明のあと、旧日光街道曲がり、最初の大沢香取神社に行きました。お宮参りの方もいらっしやった境内で、本堂の彫刻を見ました。紺屋の作業の模様とのことです。元荒川沿いに歩き、「伏せ越」を見た後、越ヶ谷天嶽寺と越ヶ谷久伊豆神社に。(中略)

用水で釣りをしている方々を見ながら、歩くと葛餅屋さんがあったのですが、10月1日から販売と聞いており、惜しかった。。との声もありました。寶珠院に寄った後静栖寺に、ここには、豪農石川民部家があり、宝篋印塔、五輪塔など30基以上がありました。やはり、松伏といえば「石川」なのですかね。隣の松伏神社を見た後、松伏町役場によって、ここから古利根川の土手を歩きました。(略)最終目的地の、大川戸杉浦陣屋跡に、現在はカインズホームになっていますが、説明板がありました。(以下略。詳しくはブログをご覧ください)



朝霞市で「武蔵野台地の古代・中世・近世」を見る

友の会・まち歩き研究会 9月22日に開催



埼玉県朝霞市で「武蔵野台地の古代・中世・近世—朝霞市の歴史と文化」のまち歩きを行いました。29名が参加。参加者は、朝霞台駅からすぐに急な崖を下ります。これは黒目川(あるいは古代の多摩川)が武蔵野台地を侵食して形成した河岸段丘です。(略)対岸の崖線を登りますが、見えてくるのは真言宗智山派の東円寺です。朝霞市内最古のお寺で境内には空海伝説の残る不動の滝があります。

次いで狭い谷を隔てて朝霞市立博物館。ここには水車を利用して発展したかつての伸銅工業の製造工程のジオラマが展示されています。いわば朝霞の近代ですね。(略)埼玉県南部で唯一、墳丘が現存する貴重な前方後円墳の終塚古墳で昼食休憩。ここからまた小さな谷を隔ててあるのが朝霞市にある唯一の国指定重要文化財である旧高橋家住宅。朝霞市博物館の三井田学芸員に解説をお願いしました。(詳しくはブログで)

◆玉敷神社神楽見学と騎西城跡を訪ねる(加須市)◆

12月1日(金) 友の会「日本の祭り研究クラブ」第24回見学会のお知らせ(参加自由)

《名称》「玉敷神社神楽」見学と騎西城跡を訪ねる(加須市)

《期日》12月1日(金) 10時00分～16時00分:雨天決行

《集合》JR高崎線「鴻巣駅」改札出口 AM9時45分(バスで「加須駅行き」乗車「福祉センター」下車)

《費用》交通費(電車・バス代等),保険代他100円

《持物等》歩き易い靴並びに飲物・昼食・カメラ・傘等(近くにコンビニあり)

・「神楽」とは、神座に神を迎え、その前で行われる招魂・鎮魂の神事芸能のことです。「玉敷神社神楽」は舞踏的な鷲宮催馬楽神楽と、演技的な大宮住吉神楽の中間に位置する神楽です。江戸神楽の原型で素朴な舞です。平成20年国の重要無形文化財に指定され、年4回奉納されています。(奉納日2/1・5/5・7/15・12/1 13:30～15:00)・騎西城跡は、教科書には取り上げられていないが、騎西城を舞台にして上杉謙信の率いる軍勢と激しい攻防戦が繰り広げられた場所です。騎西城を偲ぶ姿は土塁だけですが、二の丸跡・天神曲輪跡・障子掘跡・大手門跡などを絵図に基づき往時に思いを馳せましょう。

《申込み》下記の連絡先までお願い致します。

《連絡先》元木孝 TEL:0493-54-0401(携帯090-2259-1673) Eメール(qqqt9x8a9@cyber.ocn.ne.jp)

★ 次回予定:平成30年(2018年)2月19日(月)「上岡観音」(馬頭観音)の絵馬市(東松山市妙安寺)

身近にある武蔵国分寺跡と横浜市歴史博物館および大塚・歳勝土遺跡を訪ねる

午前中、“国分寺シリーズ”最後の『国史跡武蔵国分寺跡（資料館）・同尼寺跡』を訪ね、午後は『横浜市歴史博物館』と隣接する『国史跡大塚・歳勝土遺跡（弥生中期の復元大規模環濠集落と同期の方形周溝墓）』を見学します。

- ①武蔵国分寺跡（資料館）、同尼寺跡、現国分寺（薬師堂・仁王門）をガイドの案内で見学します。
- ②国史跡東山道武蔵路遺構を見学します。
- ③大塚・歳勝土遺跡をガイドの案内で見学、そのあと横浜市歴史博物館（円形展示室）を自由見学します。
- ④昼食はホテルコンチネンタル府中のレストラン東北牧場で和食ランチを賞味します。

行程予定

大宮—首都高—中央高速—国立府中IC—東山道武蔵路跡—国分寺跡・国分尼寺跡—昼食（レストラン東北牧場）—一般道—大塚歳勝土遺跡・横浜市歴史博物館—東名川崎IC—東名高速—首都高—大宮（18時帰着予定）

〈ご注意〉石段や坂道があり歩行距離もかなりありますので、必ず歩きやすい服装・靴でお出かけください

日 時：平成29年12月15日（金） 雨天決行

出 発：午前8時00分（時間厳守・発車時間です）

集合場所：大宮駅西口・ソニックビル西側（友の会旗を掲げています）

参加費：7,000円（当日集金）

◎ご参加のお申込みは～

- ・締切り：11月30日（木） ・定員：45名（先着順）
- ・会員限定ですがご家族、ご友人は参加できます
- ・申込み方法：往復ハガキに、見学会名『12月15日の武蔵国分寺探訪』・住所・氏名・会員番号・電話番号（できれば携帯）を明記
- ・宛先：〒330-0852 さいたま市大宮区大成町3-503-4 高瀬敏男 宛
- ・座席希望・集合場所地図希望・昼食でポークがダメな方はハガキに付記してください
- ・見学会に関するお問い合わせと当日緊急連絡先：090-9104-2979 事務局 高瀬敏男